



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	柿田川野菜工房 工場新築工事	BEE	1.2	BEEランク	B+	★★★

2. 重点項目への取組み度					
重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価		
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.2	/5		ふつう	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.9	/5		がんばろう	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	2.6	/5		がんばろう	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.4	/5		がんばろう	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目	
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。		得点	3.2
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)			
<ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④床・長尺塩ビシート2.0t→20年、壁・PB12.5t+スタンダードクロス→20年、天井・ジプトーン9.5t(ボード類相当)→30年。 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) 特になし。 ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑦BPI_m=0.58。 ⑨[BEEI][BEI_m] = 0.52。 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑫床・長尺塩ビシート、磁器質タイル。 ⑬LGS使用している。 ⑬発泡剤を用いた断熱材等を使用していない。 	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔	
	Q-3 1 3 3.2 ⑤ ⑥	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上	
	LR-1 1 2 3 4 4.1 4.2 ⑦	⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制	
	LR-2 1 1.1 1.2 1.2.1 ⑪ 1.2.2 ⑪ 2 2.1 2.1.1 ⑫ 2.1.2 ⑫ 2.1.3 ⑫ 2.1.4 ⑫ 2.1.5 ⑫ 2.1.6 ⑫ 3 3.1 ⑬ 3.2 3.2.1 ⑬ 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬	⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒	
LR-3 1 2 2.2 ⑭ ⑮	⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善		
"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)			
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) 特になし。 	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)			
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑲[壁長さ比率] < 0.1。 ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) 特になし。 	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲ ⑳ Q-3 3 3.1 ㉑	ユニバーサルデザイン計画 階高のゆとり 空間の形状・自由さ 地域性への配慮、快適性の向上	
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)			
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/㉓敷地内温熱環境の向上) 特になし。 ■敷地外環境対策 (㉔温熱環境悪化の改善) 特になし。 	Q-3 1 ⑳ 2 ㉒ 3 3.2 ㉓ LR-3 2 2.2 ㉔	㉓ 生物環境の保全と創出 ㉒ まちなみ・景観への配慮 ㉓ 敷地内温熱環境の向上 ㉔ 温熱環境悪化の改善	

CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	柿田川野菜工房 工場新築工事	階数	地上2F
建設地	静岡県三島市平田171-1,171-2,172-1,172-3,173-1	構造	S造
用途地域	指定なし、防火地域 指定なし	平均居住人員	240 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920 時間/年(想定値)
建物用途	事務所工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年6月 予定	評価の実施日	2020年08月01日
敷地面積	4,807 m ²	作成者	吉田 敏彦
建築面積	2,167 m ²	確認日	2020年08月10日
延床面積	2,432 m ²	確認者	近藤 千秋



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100% (92 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み: 62% (46 kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外の: 34%

④上記+: 34%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.4

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.8

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項		
総合 CASBEE 静岡2016年版による評価結果である。 利用者に配慮し、F☆☆☆☆を使用している。 主要給排水配管は耐用年数が高い材料を使用している。 ライフサイクルコストの低減に努め、地球環境保護に配慮している。		その他 特になし。
Q1 室内環境 2.5% ≤ [昼光率]。 JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。 自然換気有効開口面積が居室床面積の1/15以上。	Q2 サービス性能 天井高2.7m以上。 [壁長さ比率] < 0.1。	Q3 室外環境(敷地内) 特になし。
LR1 エネルギー BPI _m =0.58。 BEI _m =0.52。	LR2 資源・マテリアル LGS使用している。 発泡剤を用いた断熱材等を使用していない。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率が、一般的な建物(参照値)に対して34%。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される